

令和7年度 日本語教育能力検定試験 試験Ⅰ 正答

大問	小問	正答
問題1	(1)	2
	(2)	4
	(3)	2
	(4)	4
	(5)	5
	(6)	2
	(7)	1
	(8)	2
	(9)	1
	(10)	5
	(11)	3
	(12)	1
	(13)	3
	(14)	3
	(15)	5
問題2	(1)	2
	(2)	1
	(3)	4
	(4)	3
	(5)	2
問題3A	(1)	2
	(2)	1
	(3)	2
	(4)	1
	(5)	3
問題3B	(6)	3
	(7)	1
	(8)	1
	(9)	2
	(10)	3
問題3C	(11)	3
	(12)	1
	(13)	4
	(14)	1
	(15)	4
問題3D	(16)	1
	(17)	4
	(18)	3
	(19)	2
	(20)	2
問題4	問1	1
	問2	2
	問3	4
	問4	4
	問5	3
問題5	問1	2
	問2	3
	問3	4
	問4	2
	問5	1
問題6	問1	3
	問2	3
	問3	4
	問4	2
	問5	1

大問	小問	正答
問題7	問1	1
	問2	2
	問3	4
	問4	4
	問5	3
問題8	問1	2
	問2	1
	問3	3
	問4	4
	問5	4
問題9	問1	3
	問2	2
	問3	4
	問4	1
	問5	2
問題10	問1	4
	問2	1
	問3	4
	問4	3
	問5	2
問題11	問1	3
	問2	3
	問3	4
	問4	1
	問5	2
問題12	問1	2
	問2	2
	問3	1
	問4	4
	問5	4
問題13	問1	4
	問2	1
	問3	4
	問4	1
	問5	3
問題14	問1	2
	問2	4
	問3	2
	問4	1
	問5	3
問題15	問1	4
	問2	3
	問3	3
	問4	1
	問5	3

令和7年度 日本語教育能力検定試験 試験Ⅱ 正答

大問		小問	正答
問題1		(1)	c
		(2)	b
		(3)	c
		(4)	a
		(5)	d
		(6)	d
問題2		(1)	a
		(2)	d
		(3)	b
		(4)	b
		(5)	c
		(6)	c
問題3		(1)	a
		(2)	c
		(3)	b
		(4)	b
		(5)	a
		(6)	c
		(7)	a
		(8)	d
問題4	1番	問1	a
		問2	c
	2番	問1	a
		問2	d
	3番	問1	b
		問2	c
問題5	1番	問1	c
		問2	b
	2番	問1	a
		問2	b
	3番	問1	d
		問2	d
問題6		(1)	c
		(2)	d
		(3)	b
		(4)	d
		(5)	b
		(6)	d
		(7)	a
		(8)	a

令和7年度 日本語教育能力検定試験 試験Ⅲ 正答

大問	小問	正答
問題1	問1	1
	問2	2
	問3	4
	問4	2
	問5	3
問題2	問1	4
	問2	2
	問3	3
	問4	4
	問5	3
問題3	問1	3
	問2	4
	問3	1
	問4	2
	問5	4
問題4	問1	2
	問2	3
	問3	1
	問4	2
	問5	1
問題5	問1	2
	問2	1
	問3	3
	問4	1
	問5	4
問題6	問1	4
	問2	4
	問3	3
	問4	2
	問5	1
問題7	問1	3
	問2	1
	問3	1
	問4	2
	問5	4
問題8	問1	1
	問2	4
	問3	3
	問4	4
	問5	2
問題9	問1	3
	問2	4
	問3	2
	問4	1
	問5	2
問題10	問1	3
	問2	2
	問3	1
	問4	4
	問5	1

大問	小問	正答
問題11	問1	1
	問2	2
	問3	4
	問4	2
	問5	2
問題12	問1	1
	問2	3
	問3	3
	問4	4
	問5	3
問題13	問1	2
	問2	1
	問3	3
	問4	3
	問5	4
問題14	問1	1
	問2	4
	問3	2
	問4	1
	問5	3
問題15	問1	2
	問2	4
	問3	1
	問4	4
	問5	3
問題16	問1	3
	問2	2
	問3	4
	問4	1
	問5	2

問題 17 記述式問題解答例

ルーブリック作成の効能は、その結果より、むしろ作成のプロセスにある。ルーブリックには評価の観点と、観点ごとの水準記述が含まれるが、観点の設定にあたっては、「その出題が目指すもの」を明確にするとともに、観点同士に重複がないよう、目標を適切に構造化することも求められる。また、観定の定義や水準記述について、誰が見ても誤解なく理解できるような言語化能力を高めるとともに、教師間の言語観・教育観の相違に気づいていくことにも貢献するだろう。

ルーブリックをいったん作成したら、複数の教師で実際に採点を行ってみて、「なぜ評価がずれたのか」の議論を行うことが有効である。ルーブリックを媒介に議論を行うことで、評価のずれがどういう要因によって生じるのかが浮き彫りとなる。そうしたずれを理解しつつ、それでも一緒に教育活動を進めていこうとする態度は、教師間で協働で作業を行うにあたり極めて重要なものである。

(392 字)